占める上院は修正案を否決、野党案は廃案となった。

これを受け議会の与野党指導部は30日、妥協案づくりを本格化。上院では大統領に上限引き上げ権限を与え、財政赤字削減の協議を踏まえて段階的に引き上げる手法を軸に検討しているもよう。

与党民主党が多数派の上院は、週明け8月1日朝までの

野党修正案は債務上限を9千億ドル（約69兆円）引き上げた後に、総額3兆ドルの財政赤字を削減。さらに将来の政府支出に上限を設ける憲法改正で合意すれば、追加で債務上限を引き上げる仕組み。党内保守派の要求に応じ引き上げのハードルを高くした結果、政権与党には受け入れ困難な内容だった。

上院与党は、野党が多数派を握る下院でも受け入れ可能な妥協案を模索。米紙ワシントン・ポストによると、民主党のリード上院院内総務は、上限引き上げ規模を2兆4千億ドルに縮小した修正案を検討。将来の財政赤字削減を協議する特別委員会を設置した上で、両院で3分の2以上の反対がなければ、3段階に分

乱から抜け出す道は数多い」と妥協案づくりに期待を表明した。

米財務省は、29日に国債市場の公認ディーラーとの会合を開いた。市場関係者の動揺を抑える狙いがある。期限後の政府支払いに優先順位をつける方策の公表は、週明けに持ち越した。

済の減速が鮮明となり、ドルは円やユーロなど主要通貨に対して売り込まれた。

米連邦債務の上

東京ふりーぱす

ウオッチング

県食材、もっと身近に

東京で県主催料理教室

OLの口コミPR狙う

都心で働くOLたちに県産食材を使った料理のレシピを産地情報とともに紹介し、試食してもらう県主催の料理教室がこのほど、東京・丸の内の「ABCクッキングスタジオ」で行われた。同スタジオは、全国に115カ所の教室を持ち、会員約25万人と国内最大規模の料理教室運営会社。仕事帰りに通う20～30代の独身が多く、口コミで県産食材や本県の魅力を広めてもらう狙い。会員約80人が参加した。

県産食材を使ったレシピを学んだ料理教室＝東京・丸の内

秋田市で県産食材にこだわったカフェを運営する料理研究家の米本かおりさん(50)が講師を務め、県職員扮するなまはげと秋田弁を交えながら実演した。

メニューはスパイスを利かせた比内地鶏のフリット、あきたこまちを使ったレモンピラフ、夏野菜のしょっつるココット、トマトとジュンサイのさっぱりスープなど。随所に米や米粉を使った。「ジュンサイは冷製パスタにも合う」といった説明に、参加者たちは熱心にメモを取っていた。

試食では、本県の見どころやアンテナショップなどを紹介する映像を見ながら、あきたこまちで作った米パンや、地酒も味わった。

「キュウリやアスパラガスは大きくて甘さがある。ふだん買うものとは違うと思った」と千代田区の銀行に勤務する埼玉県草加市の小林幸代さん(35)。「簡単にできそうなので挑戦してみたい。友人たちにも勧められそう」と話した。

銀座の会社帰りに参加した

たさいたま市の丹羽貴子さん(35)は「秋田の食材はなかなかそろえられないと思っていたが、（アンテナショップなどで）手に入りそう」。他の参加者からは「映像で見た景色がきれい。行ってみたくなった」などの声が聞かれた。

同スタジオによると「会員たちは食への関心が高く、それなりに収入もある。彼女たちの口コミ、行動力は侮れない」。

米本さんは「郷土料理には郷土料理の良さがあるが、いろんな食べ方ができることを知ってもらうことで県産食材を身近に感じてもらいたい」と話し、参加者たちに本県への旅行も呼び掛けていた。（小川顕）

あきた人

光にこだわり ランプを輸入

潟上市出身の成田佳子さん

インテリアランプの輸入・卸の「デコライト」（埼玉県朝霞市）を経営する成田佳子社長(38)は天王町（現潟上市）出身。独特の幻想的な光が特徴のランプが女性に人気だ。

同社の主力商品の一つはステンドグラスランプ。成田さんとスタッフ数人が商品のデザインを担当、大連市など中国の数社が製品化したものを輸入し、小売店、インターネット、ショールームを通じて販売している。

客層は女性が中心だ。「飲食店や友人の家に飾ってあるランプにみせられて購入してくれるケースが多いようだ。ステンドグラスの光は心を癒やしてくれるので、仕事から帰って部屋の照明を落とし、ホッとできるような空間をつくるのに役立ててほしい」

特に光の質にこだわっている。「ステンドグラスランプにはビー玉をスライスしたようなグラスジュエルという素材を使っている。光の〝キラキラ感〟がアップする」。ステンドグラスランプ制作は、数千種類あるガラスを細かく切っては一つ一つはんだ付けする細かい作業だけに、輸入した完成品のチェックは欠かせないという。

秋田北高卒業後、輸入車のディーラーに就職。その後、服飾の仕事に転じたが、旅行で訪れた八ケ岳のペンションでステンドグラス制作を体験し「これだと感じた」。東京に帰って教室に通った後、ステンドグラスを用いたインテリア照明の大手に働き口を見つけ、7年ほど制作や営業、仕入れなどを担当。2001年、28歳で独立した。

朝霞市に事務所と倉庫、東京・品川区西五反田にショールームを構える。県内でも秋田市や北秋田市の小売店などでランプを販売。商品は新築や結婚祝いのプレゼントとして贈られることも多く、「『贈って喜ばれた』という反応があった時、この仕事をやっていて良かったと思う」と言う。

20代の頃は「全く秋田に帰らなかった」が、今は2、3カ月に1回は帰省する。板橋区住。

（赤石昌之）

感じる夏キャンペーン」と銘打ち、中野節副知事ら県関係者と全農あきたのスタッフが県産青果物などをアピールした。

オープニングセレモニーで中野副知事が「豪雪と東日本大震災で農業にとってはつらい時季があったが、4月以降は天候に恵まれて農産物が良く育った。放射線問題に関心

して異常はない。安心してべてほしい」と消費者に呼掛けた。

その後、県産の枝豆やト、スイカ、山菜、豚肉なを販売。キャンペーンガの「ミス・フレッシュ」らが試食を勧めては新鮮さを訴た。

また、先着200人に「きたこまち」などをプレゼントしたほか、都内在住の野ソムリエによる県産野菜を使った料理の実演を行った。

フェアは首都圏の東急ス店舗で毎年開かれている

（赤石昌之）

韓国・鬱陵島視察

入国不許可伝達 自民議員が反発

8月初旬に竹島（韓国名・独島）北西の韓国・鬱陵島視察を計画している自民党新藤義孝衆院議員は30日、会内で記者会見し、韓国政から日本政府への入国不許伝達に対し「韓国側の主張よく知るために視察に行くけだ。入国を認めないということは受け入れられない」反発した。

同時に「視察は韓国が竹の実効支配を強めており、の基礎知識を得るため。日旗を振りかざしたりはしい」と述べた。

新藤氏らは8月1日にソル入りし、2、3両日に鬱島の現状を調査する予定。方、韓国側は市民団体など強く反発し抗議集会も相次でいる。